

編集後記 第九号をお届けします。今号は投稿論文に加えて特集「原爆文学／表象と政治的リアリズム」を掲載しています。この特集は日本社会文学会と共催した学会・研究会におけるシンポジウムの記録を掲載したものです。文章化にあたっては登壇者と司会者の皆さまにご尽力いただきました。誠にありがとうございました。また、このシンポジウムを開催できたのは、そもそも日本社会文学会と学会・研究会を共催できたからです。この会の企画運営に当たられた関係者各位にも感謝しております。特に二つの会の間で川口隆行氏と深津謙一郎氏には心からの感謝と労いの言葉を贈ります。

なお、今号発行経費のうち、特集の分は故花田俊典氏のご家族から本研究会へ賜りました。ご寄付の一部を充てさせていただきました。この場を借りて厚く御礼を申し上げます。

さて、今年には本研究会の会員による書籍が二冊刊行されましたのでご紹介します。まず、七月には水島裕雅氏・成定薫氏・野坂昭雄氏監訳のジョン・W・トリート著『グラウンド・ゼロを書く―日本文学と原爆』が法政大学出版社より刊行されました。監訳者三氏を中心に他の会員も共訳者として多数参加。六〇〇頁を超える大著ですが、ご高覧いただければ幸いです。

また、九月には柳瀬善治氏の著書『三島由

紀夫研究―「知的概観的な時代」のザインとゾルレン』が創言社より刊行されました。「原爆文学研究」に発表された御論文も収録。これも五〇〇頁に迫る大著ですが、ぜひ多くの方にお読みいただきたい一冊です。

二〇〇一年一月に発行いたしました本研究会もいよいよ活動一〇年目に突入いたしました。「原爆文学」に関する問題意識を持ち寄り、より先鋭化し合える場を目指して、今後会の運営と機関誌の編集に力を注いでまいりますので、お力添えいただければ幸いです。読者の皆さまからのご意見、ご感想などお待ちいたしております。(N)

原爆文学研究 9

二〇〇一年一月二十五日発行

編集 原爆文学研究会

八九〇三五

福岡市西区元岡七四四

九州大学大学院比較社会文化研究院

波瀾剛研究室気付

発行 (有)花書院

八〇〇〇三

福岡市中央区白金二一九一六

TEL 〇九二五三〇六七

FAX 〇九二五四四四二

定価 一一〇〇円(本体 一四三円)

◇書店にない場合は「地方小出版流通センター扱い」とご指定の上、書店にご注文下さい。

◇継続購読は、花書院「原爆文学研究係」にお申し込み下さい。送料は無料となります。